

証券コード：6469

株式会社 **放電精密** 加工研究所

2024年2月期
決算説明会資料

2024年4月17日

■ **本資料のポイント** …P.3

■ **中期経営計画2027の策定** …P.13～

■ **2024年2月期決算概要**

■ **2025年2月期通期業績予想** …P.36

□ 2024年2月期通期 決算概要（連結） …P. 4

□ 2024年2月期通期 利益の変動要因 …P. 5

□ 事業概要 …P. 6

□ 2024年2月期 セグメント別概要 …P. 7～

□ 連結貸借対照表とCFの状況 …P. 11

□ 2024年2月期 設備投資・償却費・研究開発費 …P.12

■ **別紙①：2024年2月期決算補足資料**

■ **別紙②：企業概要について**

2024年2月期 通期業績総括

◆売上高121億円 前期に対し4.1%増

- 放電加工・表面処理の売上拡大が寄与して増収

◆各段階利益で前期に対し増益で着地

- 営業利益2億3千万円 前年同期比5億4千万円の増益
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に繰延税金資産の取り崩しを行い15億円増

中期経営計画 2027の策定

◆2024年4月9日に中期経営計画2027策定に関するお知らせを発表

- 三菱重工業株式会社を割当先とした第三者割当増資を実施、成長分野へリソース集中

2025年2月期 通期業績予想

◆営業利益は2期連続増益見通し

- 増収および収益性の改善による一定量の効果を見込む

2024年2月期通期 決算概要 (連結)

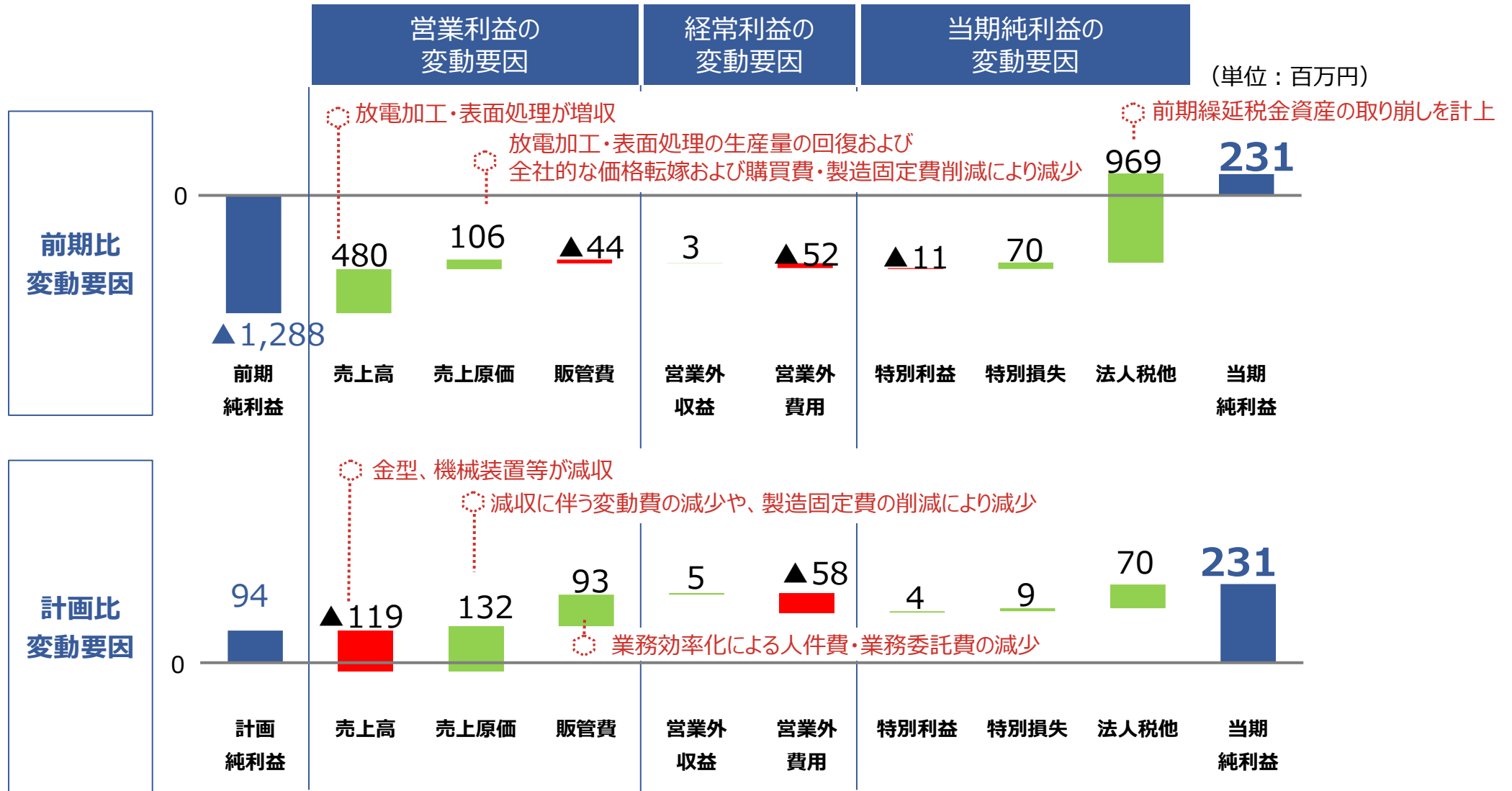


(単位：百万円)

	23年2月期 実績	24年2月期 計画	24年2月期 実績	前期差 増減	計画差 増減
売上高	11,679	12,279	12,160	+480	▲119
売上原価	9,752	9,778	9,646	▲106	▲132
売上総利益	1,927	2,501	2,514	+586	+13
販管費	2,239	2,377	2,284	+44	▲93
営業利益	▲311	123	230	+541	+106
営業外損益	▲10	▲6	▲60	▲49	▲53
経常利益	▲322	116	169	+492	+53
特別損益	▲18	26	40	+58	+13
税金等調整前 当期純利益	▲340	142	210	+550	+67
法人税等	900	45	▲16	▲916	▲61
当期純利益	▲1,240	97	226	+1,467	+128
非支配株主に帰属する 当期純利益	47	2	▲5	▲52	▲8
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲1,288	94	231	+1,519	+137

※24年2月期計画：23年10月3日公表 業績予想

2024年2月期通期 利益の変動要因



※計画比：23年10月3日公表 業績予想

※純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

※法人税他：法人税等および非支配株主に帰属する当期純利益

放電加工・表面処理

- 航空・宇宙 ~ 航空機エンジン部品
- 交通・輸送 ~ 自動車表面処理部品
- 環境・エネルギー ~ ガスタービン部品



金

型

- 住宅 ~ アルミ押出用金型
- 交通・輸送 ~ セラミックスハニカム押出用金型



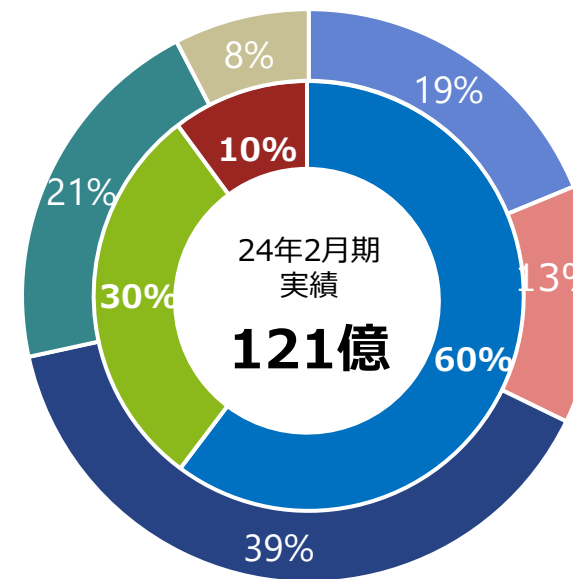
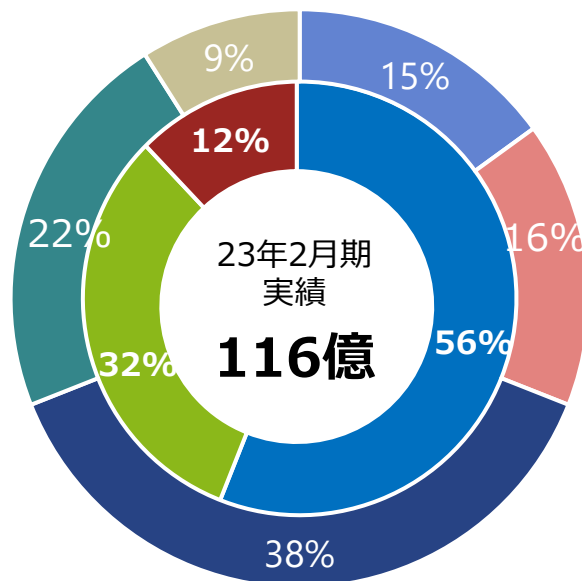
機械装置等

- 機械設備 ~ プレス機・プレス付帯設備
- 交通・輸送 ~ 自動車関連プレス部品



セグメント別/事業分野別売上構成比率 (連結)

セグメント別 ■ 放電加工・表面処理 ■ 金型 ■ 機械装置等



事業分野別 ■ 航空・宇宙 ■ 交通・輸送 ■ 環境・エネルギー ■ 住宅 ■ 機械設備

2024年2月期セグメント別概要



(単位：百万円)

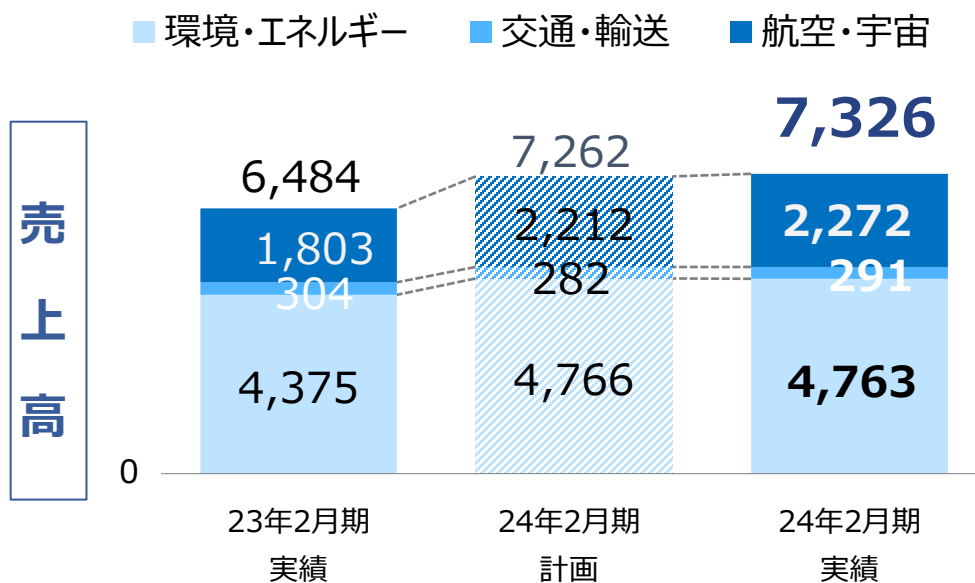
		23年2月期 実績	24年2月期 計画※	24年2月期 実績	前期差 増減	計画差 増減
売上高	放電加工・表面処理	6,484	7,262	7,326	+842	+64
	航空・宇宙	1,803	2,212	2,272	+468	+59
	交通・輸送	304	282	291	▲13	+8
	環境・エネルギー	4,375	4,766	4,763	+387	▲3
営業利益		212	611	735	+522	+123
売上高	金型	3,793	3,645	3,600	▲193	▲45
	住宅	2,645	2,562	2,517	▲127	▲44
	交通・輸送	1,147	1,082	1,082	▲65	▲0
営業利益		429	494	452	+23	▲41
売上高	機械装置等	1,401	1,371	1,233	▲168	▲138
	機械設備	1,008	1,037	918	▲90	▲119
	交通・輸送	392	334	315	▲77	▲18
営業利益		▲25	111	62	+87	▲48
全社費用		▲928	▲1,094	▲1,020	▲92	+73
全社	売上高	11,679	12,279	12,160	+480	▲119
	営業利益	▲311	123	230	+541	+106

※24年2月期計画：23年10月3日公表 業績予想

セグメント別詳細：放電加工・表面処理



(単位：百万円)



前期比 増収・増益

売上高：6,484 ⇒ **7,326** (+842)

営業利益：212 ⇒ **735** (+522)

売上高増減要因 (前期比 / 計画比)

□ 航空・宇宙 (↑ / ↑)

◇ 前期比・計画比ともに、航空機エンジン部品の生産量が回復し増収。

□ 交通・輸送 (↓ / ↑)

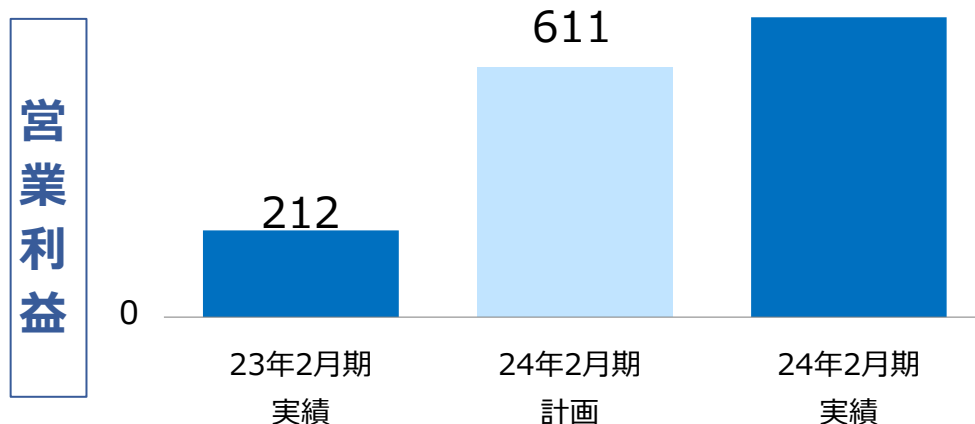
◇ 前期比は、事業所統合に伴い低利益アイテムを整理し減収。

◇ 計画比は、自動車表面処理部品の価格転嫁を実行し、増収。

□ 環境・エネルギー (↑ / ↓)

◇ 前期比は、遠心圧縮機部品とガスタービン部品の受注増加により増収。

◇ 計画比では遠心圧縮機部品とガスタービン部品は増収も、環境分野の樹脂金型の受注が想定を下回り減収。

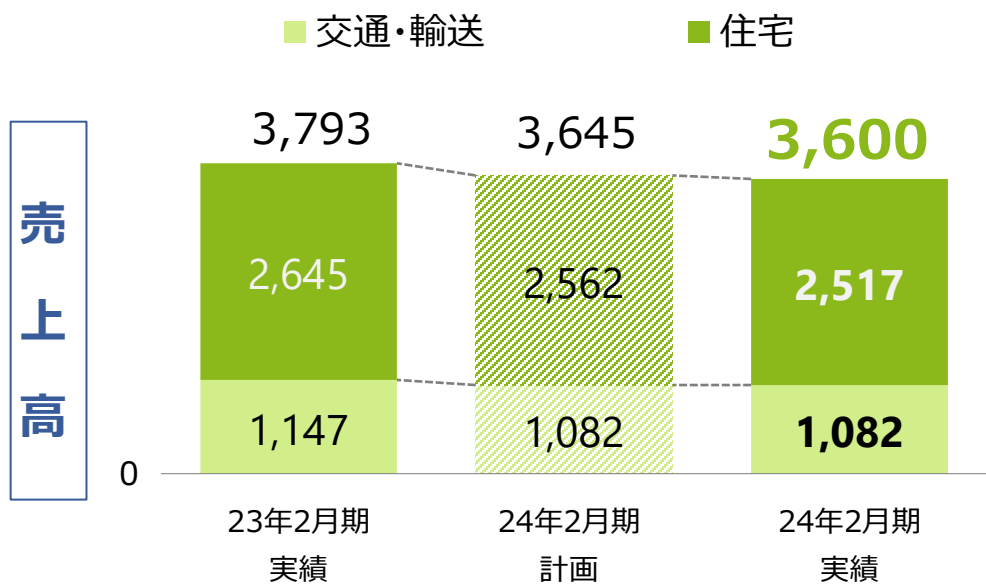


営業利益増減要因 (前期比 / 計画比)

□ (↑ / ↑)

◇ 前期比・計画比ともに、生産量回復などによる採算性の改善および価格転嫁や製造・販管固定費の削減により増益。

(単位：百万円)



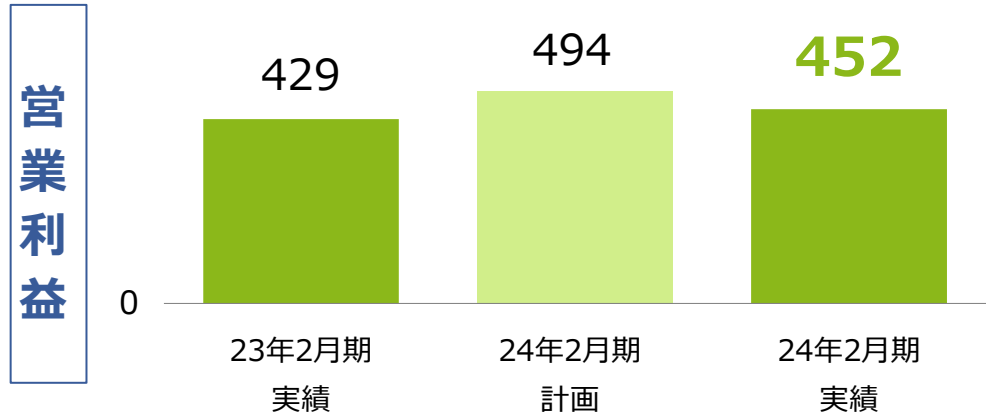
売上高

前期比 減収・増益

売上高： 3,793 ⇒ **3,600** (▲193)
 営業利益： 429 ⇒ **452** (+23)

売上高増減要因 (前期比 / 計画比)

- 住宅 (↓ / ↓)
 - ◇ 前期比は、国内向けアルミ押出用金型が価格転嫁により増収も、海外子会社のアルミ押出用金型の受注が減少し減収。
 - ◇ 計画比は、国内向けアルミ押出用金型が住宅業界の工期遅れや能登半島地震の影響による一時的な供給制限が発生し減収。
- 交通・輸送 (↓ / ↓)
 - ◇ 前期比は、自動車業界の在庫調整の影響によりセラミックスハニカム押出用金型の受注が減少し減収。
 - ◇ 計画比はおおむね想定通りに進捗。

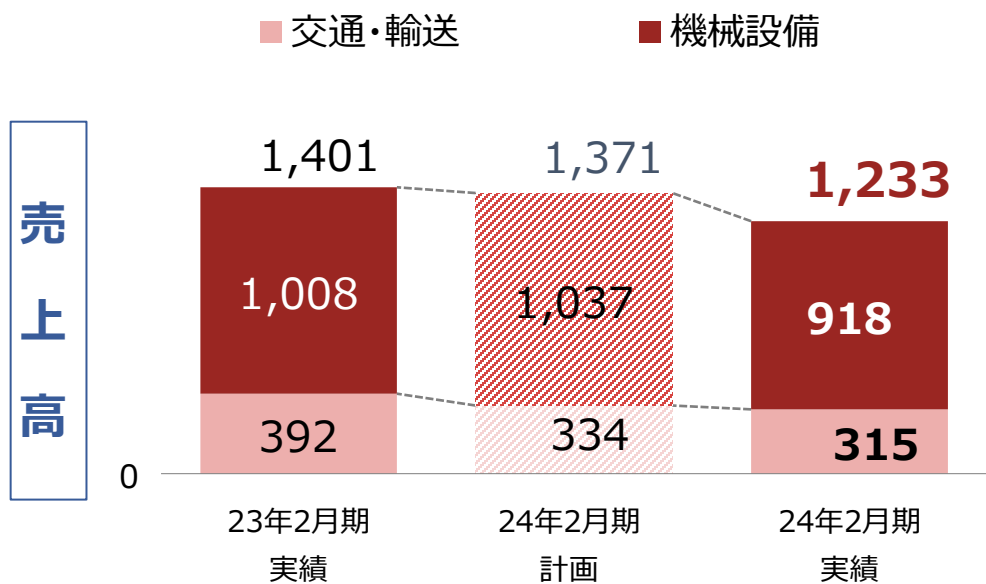


営業利益

営業利益増減要因 (前期比 / 計画比)

- (↑ / ↓)
 - ◇ 前期比は、減収も人件費などの製造固定費削減や価格転嫁により増益。
 - ◇ 計画比は、減収および固定費の圧縮不足により減益。

(単位：百万円)

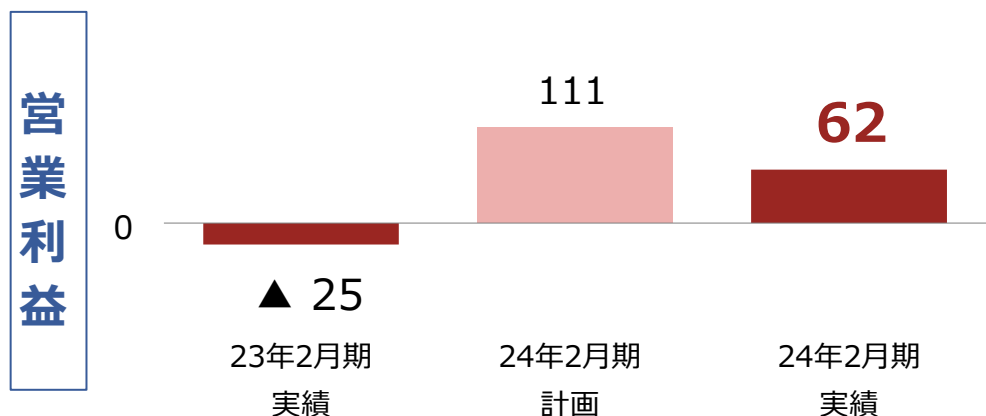


前期比 減収・増益

売上高： 1,401 ⇒ **1,233** (▲168)
 営業利益： ▲25 ⇒ **62** (+87)

売上高増減要因 (前期比 / 計画比)

- 機械設備 (↓ / ↓)
 - ◇ 前期比・計画比ともに、大型案件のプレス機およびプレス付帯設備の販売台数が減少し減収。
- 交通・輸送 (↓ / ↓)
 - ◇ 前期比・計画比ともに自動車関連プレス部品が生産計画の見直しの影響を受け減収。



営業利益増減要因 (前期比 / 計画比)

- (↑ / ↓)
 - ◇ 前期比は、減収も自動車関連プレス部品の価格転嫁に加え、製造経費の削減により増益。
 - ◇ 計画比は、減収により減益。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

流動資産 9,030 前年比：+2,732	流動負債 6,730 前年比：+647
固定資産 8,944 前年比：+412	固定負債 4,014 前年比：+150
純資産 7,229 前年比：+2,346	

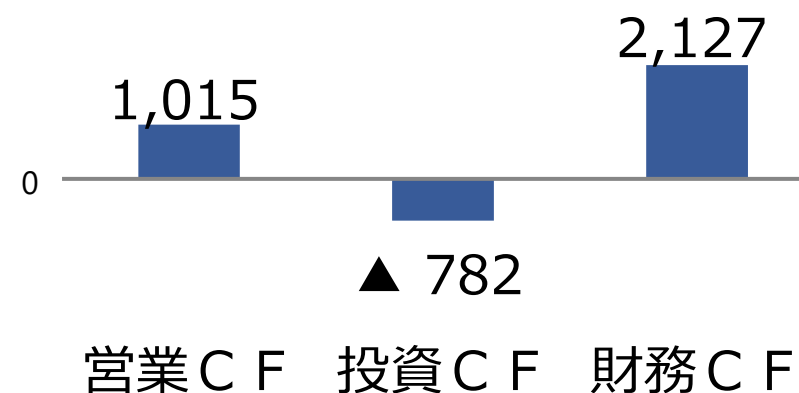
資産の部

負債純資産の部

キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	23年2月期 実績	24年2月期 実績
現金及び現金同等物の期末残高	1,530	3,975



自己資本比率

2024年2月期	：	35.8%
2023年2月期	：	27.9%

設備投資 / 減価償却費

(単位：百万円)

	23年2月期 実績	24年2月期 実績
設備投資	962	994
減価償却費	710	667

2024年2月期 主な投資案件

- 定期更新設備の実施
- 2019年契約の大和事業所隣地土地取得
※土地取得金額約2億

研究開発費

(単位：百万円)

	23年2月期 実績	24年2月期 実績
研究開発費	13	18

2024年2月期 主な研究開発案件

- DXやICTを活用した次世代に向けた生産体制構築
- 混合溶融機の開発および混合溶融技術の素材を活用した各種成型技術の検証



中期経営計画2027の策定

中期経営計画2024振り返り

◆最終年度は黒字化も、2021年4月に発表した中期経営数値目標は未達で着地

- 市場の需要変化への対応や外部購入費の上昇に対する対応の遅れ

◆新たな経営体制を構築し、収益構造と財務体質の改善へ着手

- 事業部制から本部制へ移行。購買管理強化・固定費抑制・低採算案件削減を実施

◆次世代に向けた取り組みで、人事組織改革プロジェクトを始動

- 社員の能力開発と若手育成を推進する新しい人事制度を制定

◆三菱重工業株式会社との資本業務提携契約を締結

- 長期的な戦略的パートナーシップを構築し連携を強化

ガスタービン部品・航空機エンジン部品・防衛装備品の需要拡大に対する打ち手

2024年1月30日

資本業務提携に関する契約を締結

2024年2月28日

同社を割当先とした新株式の発行を実施

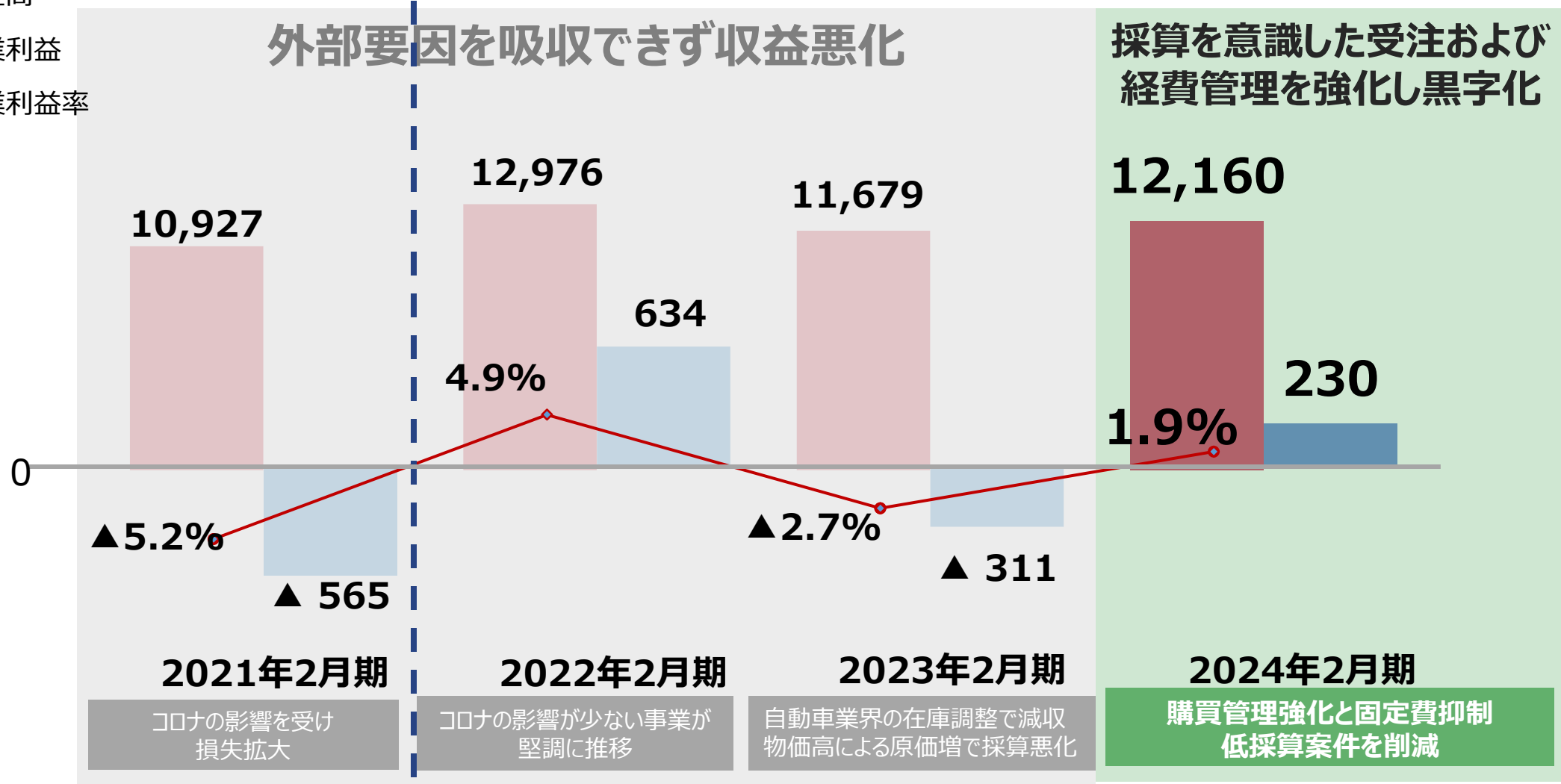
三菱重工業株式会社 × 株式会社放電精密加工研究所

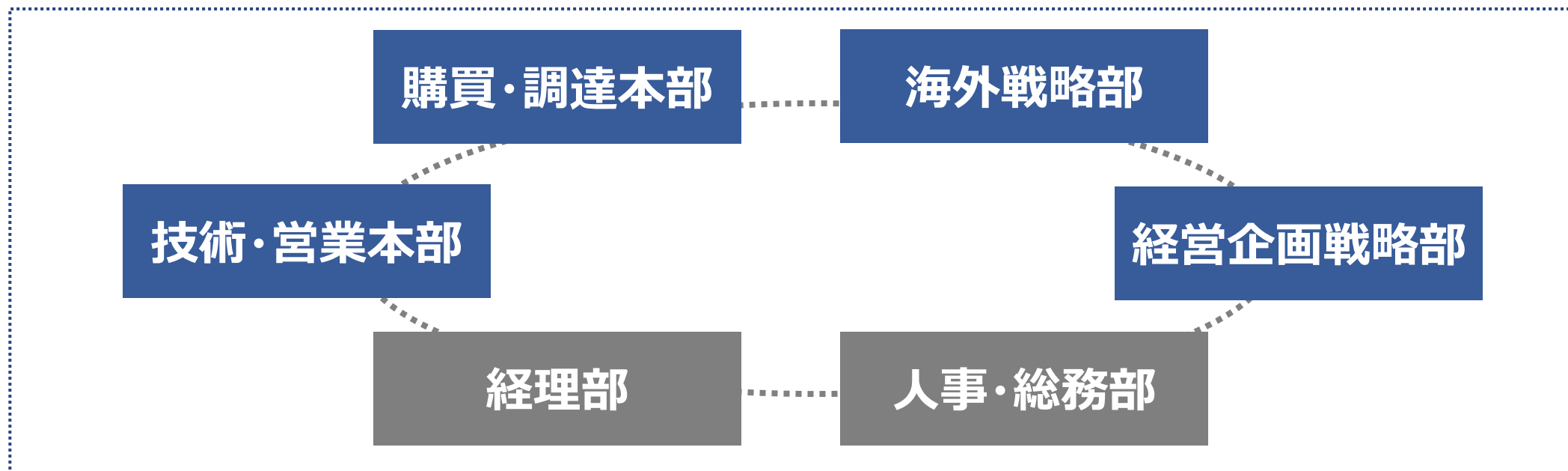
**生産設備の更新や追設、
人員の拡充等生産体制の整備**

パートナーシップ強化

中期経営計画2024 (単位：百万円)

売上高
 営業利益
 営業利益率





グループ全体最適の観点で
収益構造の転換、技術力・提案力の向上

中期経営計画2027について

経営理念

お客様の発展に貢献してこそ
当社の発展がある

当社の強み

加工
技術力



工程
開発力

ありたい姿

サステナブル社会に必要な
ものづくり技術を提供し続けて
100年企業となる基盤構築

中期経営計画2024
次世代に向けた
再構築

中期経営計画2027
2025年2月期～2027年2月期
次世代にチャレンジする
NewHSKを築こう

長期
2028年2月期～
成長期間

投資回収および
新領域への取組み加速

次の成長を見据えた
基礎固め

収益改善

改革 推進

- 成長への組織改革と人的資本投資の推進および体制の整備

収益 基盤

- 事業ポートフォリオの再設定、リソースの有効活用と効率化を促進
- 標準化と自動化による全社の業務改革を推進

成長 基盤

- 海外展開を拡大し、成長事業の国際競争力を強化
- 長期ビジョンを背景とした技術開発への取り組みを強化

経営 基盤

- ESG経営の体制構築とサステナビリティへの取り組みを推進
- ステークホルダーから安心・信頼される健全経営の推進、相互関係を強化

当社が関与する分野は、方向性は変わらないものの、 カーボンニュートラルや安全保障へのニーズが高まる傾向

事業分野	アイテム	方向性（●機会 ■リスク）	
エネルギー	ガスタービン部品	<ul style="list-style-type: none"> ●燃料転換・再エネ需要を背景に天然ガス火力発電需要継続 ●水素・アンモニア焼きガスタービンへの期待の高まり 	成長領域
航空・宇宙	航空機エンジン部品 航空・宇宙関連部品 防衛装備品	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍で一時的に需要が低迷していた航空エンジンの需要回復 ●安全保障強化の方針を受け、防衛力整備計画が大幅拡充 	成長領域
機械設備	デジタルサーボプレス機 プレス付帯設備	<ul style="list-style-type: none"> ●物価高の長期化も、生産効率を目的とした補助金が投資を後押し ●景気回復とともに半導体・自動車部品向けなど投資需要が増大 	ゆるやかに増加
環境	混合溶融技術	<ul style="list-style-type: none"> ●社会要請を背景としたプラスチックの循環利用実現への期待高まり ●環境価値の高い製品開発が加速 	ゆるやかに増加
住宅	アルミ押出用金型	<ul style="list-style-type: none"> ■中国経済の低迷および国内少子化で不動産関連は低水準に推移 ●大型再開発案件の設備投資意欲が建設需要を下支え 	横ばい
交通・輸送	セラミックスハニカム押出用金型 自動車関連プレス部品 自動車表面処理部品	<ul style="list-style-type: none"> ■中国経済減速による消費低下を背景に自動車産業の成長鈍化 ■電動化により生產品目に変化、既存部品の需要減少 ●足元では排ガス規制を背景に内燃機関車の低炭素化加速 	横ばい

事業拡大と収益性の改善により安定収益体質へ

事業機会と収益性

成長事業だが収益性に課題

ガスタービン部品、航空機エンジン部品

自社の強みを活かせる

事業領域へ資源集中



高成長・高収益事業

➤ 顧客深耕（パートナー化）



事業の成長性・収益性に課題

アルミ押出用金型

合理化追求で安定収益に貢献

事業の成長性に課題

セラミックスハニカム押出用金型、プレス機

優位性を向上し新分野で再成長

中期経営数値目標



営業利益率を経営上の重要指標に設定し、収益の安定化を推進

(単位：百万円)

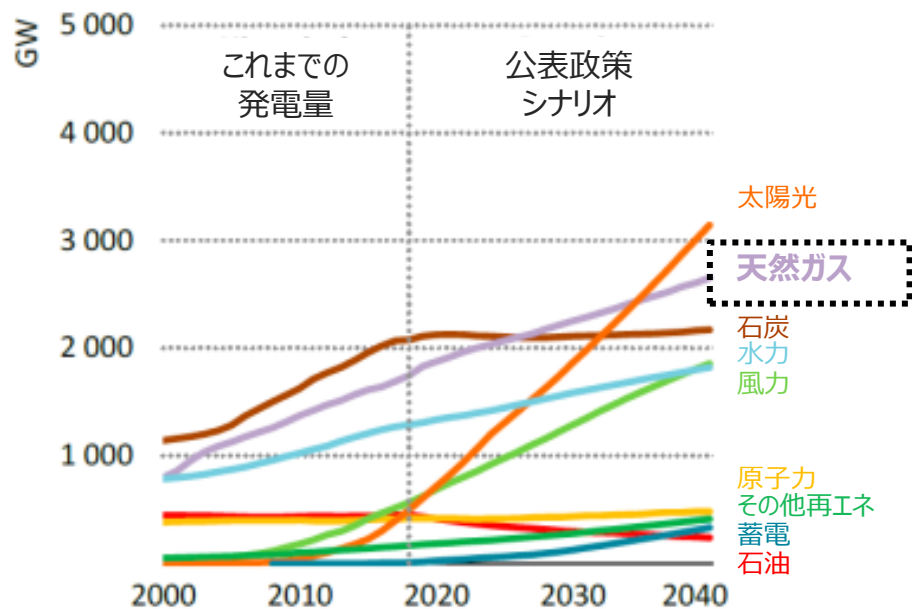
	24年2月期 実績	25年2月期 予想	27年2月期 目標
売上高	12,160	13,566	14,728
営業利益	230	368	899
営業利益率	1.9%	2.7%	6.1%

各事業の取り組み

事業機会認識

<エネルギー分野>

2040年までの世界の発電容量（電源別）



出展：環境省の「石炭火力発電輸出ファクト集2020」

- ✓ 世界の電力需要が拡大、安定供給する天然ガス火力発電は堅調
- ✓ 再エネへ移行後は、石炭火力は減少も天然ガス火力発電は需要維持

事業の取り組み

■ガスタービン部品

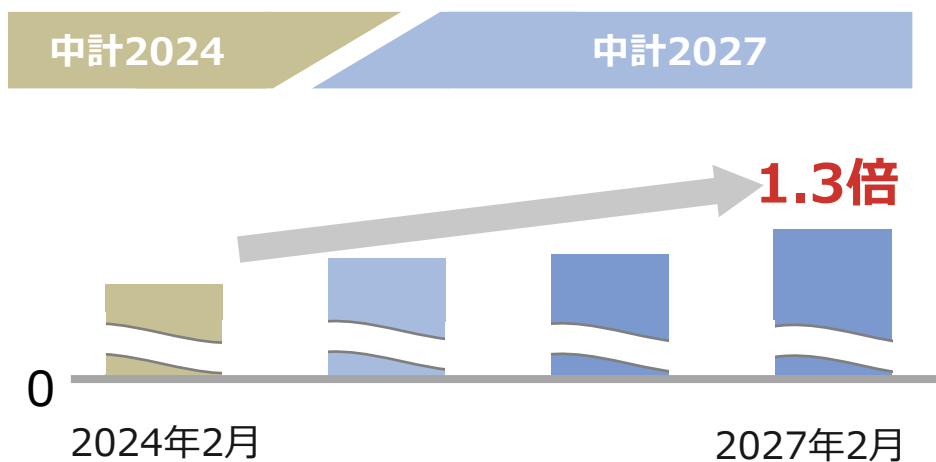
<売上拡大>

- ・生産能力増強（生産ライン増設と再構築で生産性向上）
- ・海外の主要顧客との連携強化
- ・メンテナンスサービスの拡大

<収益基盤強化>

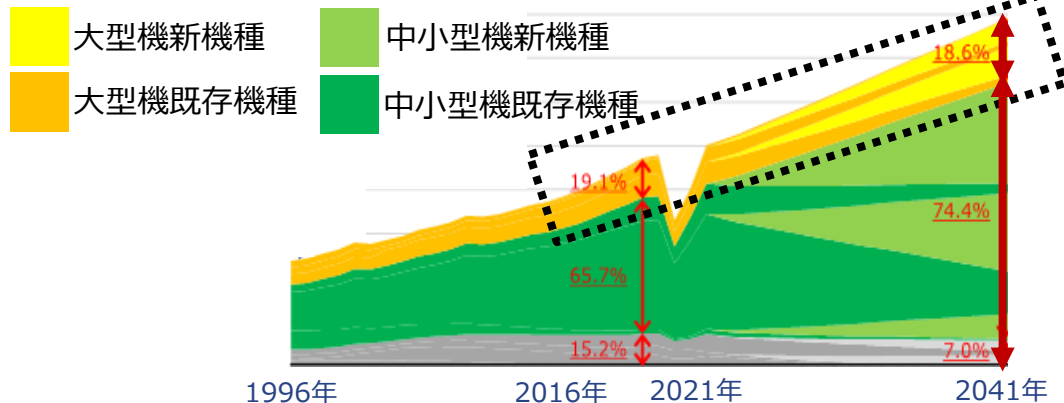
- ・既存製品と新規生産ライン立上げを両立させるため生産管理体制を強化

ガスタービン部品の売上イメージ



事業機会認識

<航空分野>



出展：一般財団法人日本航空機開発協会資料

- ✓ 大型機は新機種への入れ替え需要やメンテナンス需要は一定量を維持
- ✓ 航空機部品業界は供給網を盤石化し需要への対応をれい強化

<防衛分野>

防衛予算 27兆円 → 43兆円

(2019~23年度)

(2023~27年度)

出展：財務省ホームページ「中期防衛力整備計画」より

- ✓ 2023年度予算では防衛力整備事業費を大幅に増額
- ✓ 効率的で持続可能な装備品サプライチェーン構築を推進

事業の取り組み

■ 航空機エンジン部品

<売上拡大>

- ・機体入替需要への対応（新規エンジン部品の本格生産）
- ・メンテナンスサービスの拡大

<収益基盤強化>

- ・生産量増加への対応および価格改定の推進

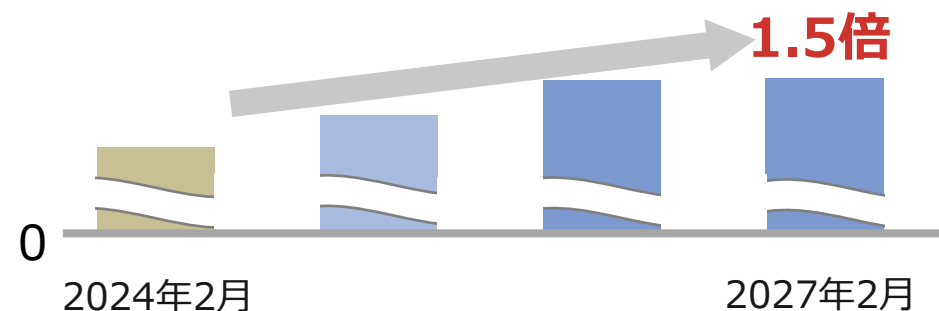
■ 防衛装備品

- ・既存アイテムの需要増加への対応

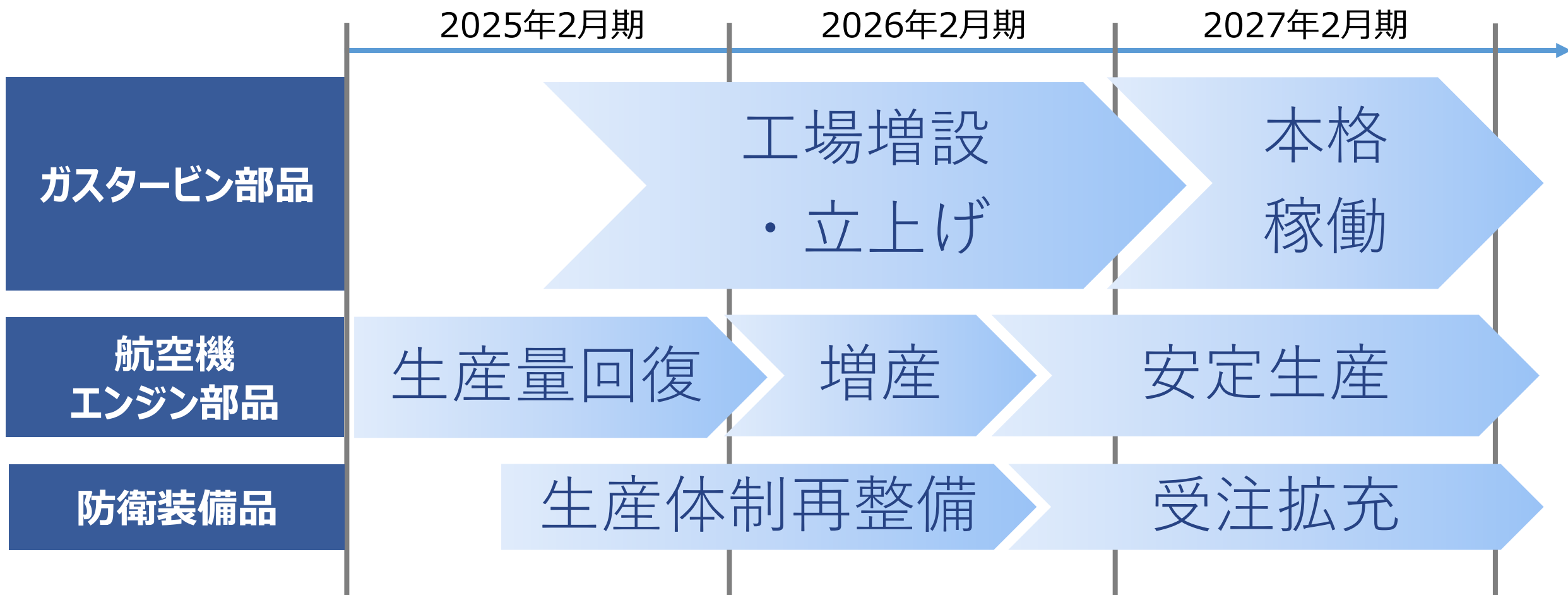
航空・宇宙分野の売上イメージ

中計2024

中計2027



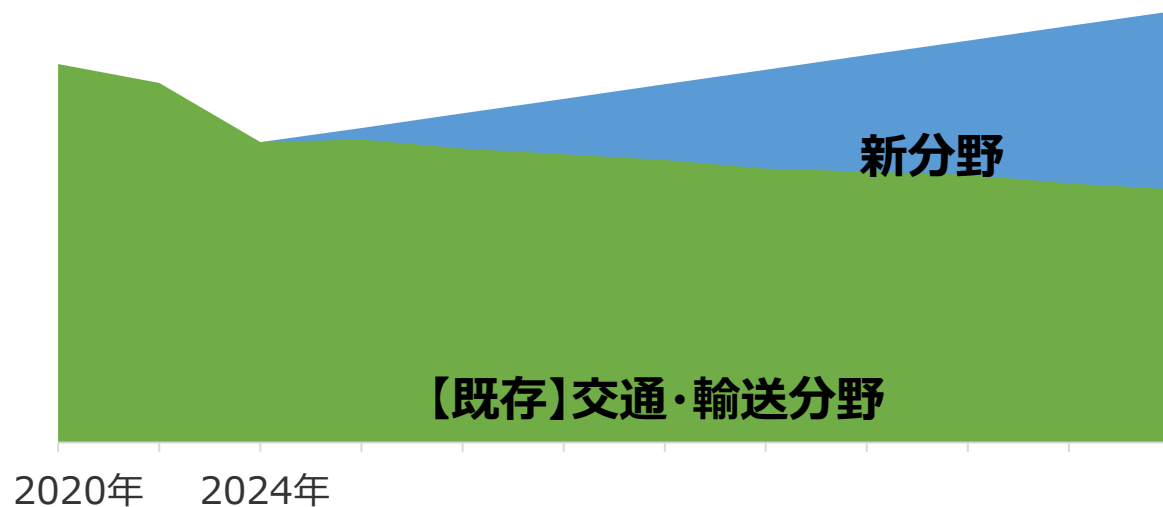
2026年2月期より段階的に増産開始



高付加価値な技術で新たな成長エンジンを創出

当社が目指す事業構造

自動車に依存した事業構造の転換を図り
お客様の掲げる次世代ビジネスへの貢献発掘



□ セラミックスハニカム押出用金型

<新分野開拓>

① 金型技術

- ・長年蓄積したセラミックスハニカム押出用金型技術による工法提案でカーボンニュートラル対応製品の開発を顧客とともに推進
- ・顧客の開発が量産へシフトする際は当社量産体制で対応

② コーティング技術

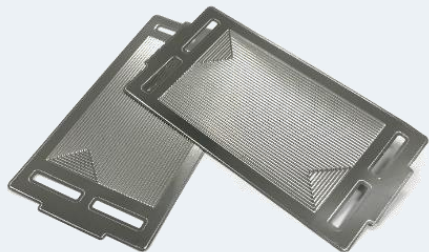
- ・蓄電池関連部品の表面処理

<生産性向上>

- ・老朽設備更新および代替技術の導入

発電・電池市場へアプローチ強化

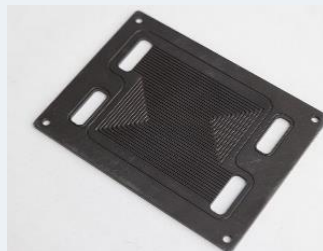
■ 発電・電気自動車関連



金属セパレータ



CFRTP深絞り圧力容器

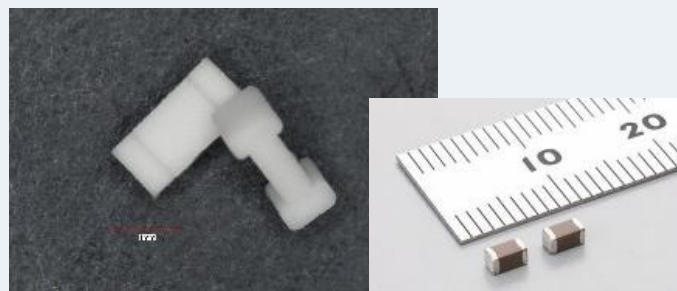


カーボンセパレータ

■ 電池・半導体・電子部品関連



セラミック粉末成形部品



セラミックコンデンサ

□ プレス機およびプレス付帯設備事業

- ・小型、中型機を主戦場としたマーケットの開拓
- ・新たな素材に対応した最適な工法の開発
- ・エンジニア力を活かした提案力の向上
- ・遠隔支援システムを活用したメンテナンスサービスの拡販



体質改善

選別受注・適正価格化

新工法による採算改善

工程集約・工法削減・省人化



需要に合った体制を維持継続し
高品質で高機能なものづくりへ貢献

□アルミ押出用金型事業

- ・国内は新工法による生産体制再整備で採算改善
- ・海外関連会社は需要に見合った生産体制で業績へ寄与



混合溶融機の拡販

■市場

2022年4月プラスチック資源循環促進法の制定から始まり
2023年12月経済産業省主催サーキュラーエコノミー会
発足などを背景に資源循環に向けた取組みがさらに加速

■プラスチック資源循環への取組み

①難処理プラスチックリサイクル

・従来リサイクルされていなかった工程廃材の再利用を推進

②バイオマスプラスチック活用

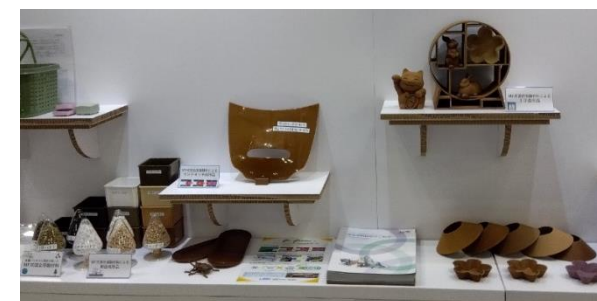
・未活用天然資源とプラスチックを混合することで
アップサイクルを実現する装置として促進

認知度向上に向けた取り組み

■ものづくり業界や地域のリサイクル課題への提案
産学官連携および高度マテリアルリサイクル研究会との
共同出展

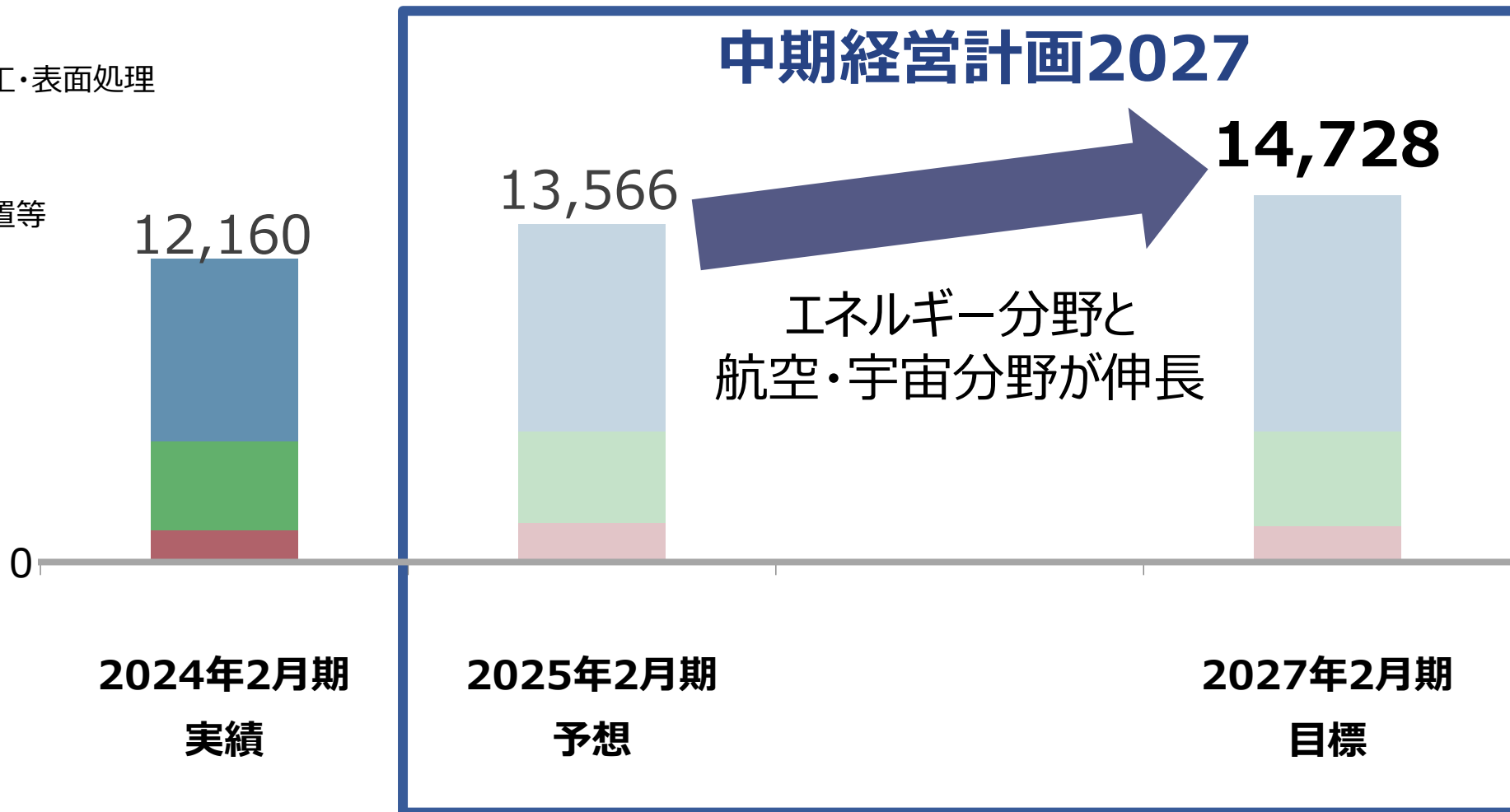


サーキュラー・エコノミーEXPO
会場：東京ビッグサイト
期間：2024年2月28日～3月1日



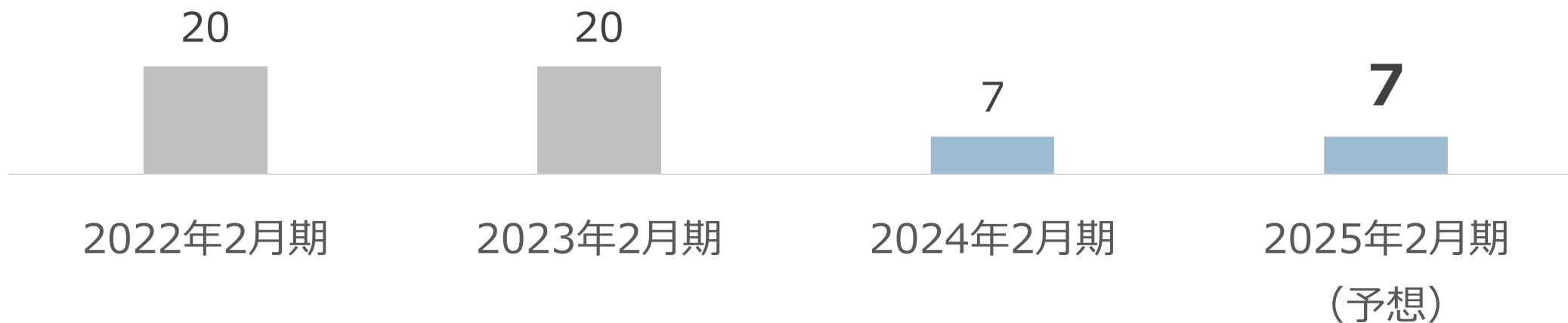
2026年2月期より段階的に業績へ寄与

- 放電加工・表面処理
- 金型
- 機械装置等



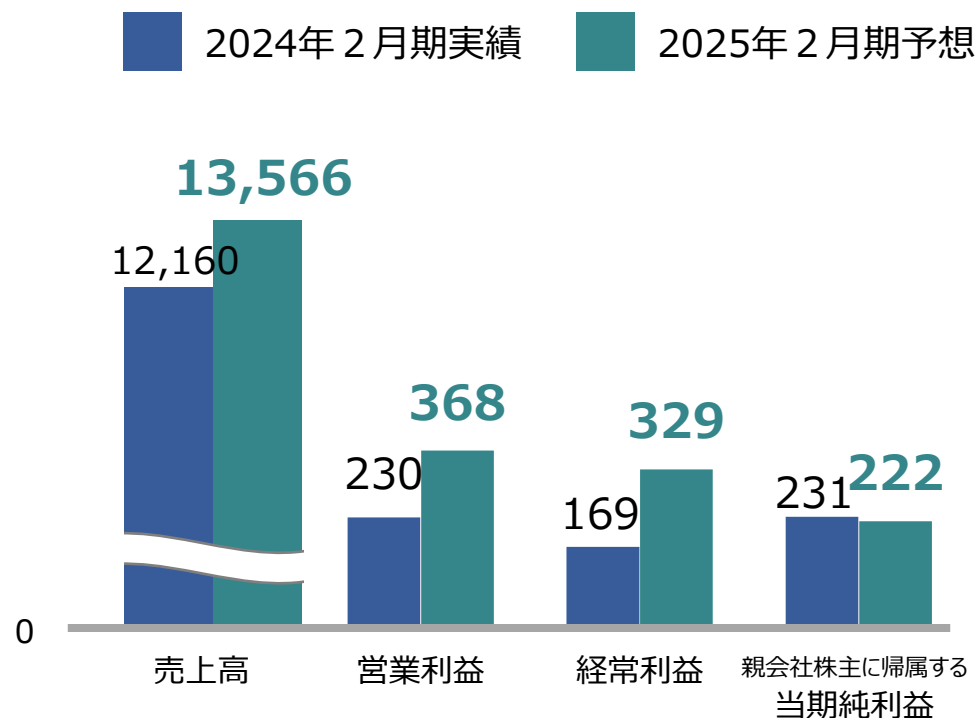
基本方針：安定的かつ継続的な利益還元

配当金(単位:円)



2025年2月期業績予想

2025年2月期通期業績予想（連結）



(単位：百万円)

	24年2月期実績	25年2月期予想	前期差	前期比
売上高	12,160	13,566	+1,405	111.6%
営業利益	230	368	+138	160.0%
経常利益	169	329	+159	193.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	231	222	▲9	96.0%

(単位：百万円)

	25年2月期上期予想	25年2月期下期予想	<参考> 24年2月期上期実績	<参考> 24年2月期下期実績
売上高	6,454	7,112	5,747	6,412
営業利益	7	361	▲33	264
経常利益	▲15	344	▲31	200
親会社株主に帰属する当期純利益	▲2	225	▲6	237

2025年2月期セグメント別概要予想（連結）



		24年2月期 実績	25年2月期 通期予想	前期差 増減	25年2月期 上期予想	25年2月期 下期予想
売上高	放電加工・表面処理	7,326	8,321	+994	4,031	4,289
	航空・宇宙	2,272	2,743	+470	1,270	1,472
	交通・輸送	291	322	+30	162	160
	環境・エネルギー	4,763	5,256	+493	2,599	2,657
営業利益		735	879	+144	323	556
売上高	金型	3,600	3,712	+112	1,812	1,899
	住宅	2,517	2,597	+79	1,263	1,334
	交通・輸送	1,082	1,114	+32	549	565
営業利益		452	486	+33	246	239
売上高	機械装置等	1,233	1,532	+298	610	922
	機械設備	918	1,211	+293	460	751
	交通・輸送	315	320	+5	149	170
営業利益		62	263	+201	62	201
全社費用		▲1,020	▲ 1,260	▲240	▲624	▲636
全社	売上高	12,160	13,566	+1,405	6,454	7,112
	営業利益	230	368	+138	7	361

放電加工 表面処理

- 航空・宇宙関連は、航空機エンジン部品と防衛装備品の生産量が増加
- 交通・輸送関連は、横ばい
- 環境・エネルギーは、ガスタービン部品が堅調に推移、混合溶融機は受注積み上げに注力

金型

- 住宅関連は、市場環境は前期並みと予想、海外も横ばいとして生産改善に注力
- 交通・輸送関連は、市場環境は前期並みと予想、生産改善に注力

機械装置等

- 機械設備はプレス機の受注積上げ、交通・輸送関連はプレス部品の体制最適化で収益寄与
- リソースを全社のDX化・自動化へ展開し業務改革を推進（機械装置等の固定費削減）

全社費用

- 会計システム等管理体制の合理化と生産性改善を図るため、基幹システム改修費の増加
- 混合溶融技術を活用した装置開発を推進

設備投資／減価償却費

(単位:百万円)

	24年2月期 実績	25年2月期 計画
設備投資	994	1,100
減価償却費	667	700

2025年2月期 主な投資案件

- ガスタービン部品、航空機エンジン部品、防衛装備品の生産体制再整備
- その他事業の定期更新設備

研究開発費

(単位:百万円)

	24年2月期 実績	25年2月期 計画
研究開発費	18	71

2025年2月期 主な研究開発案件

- 自社リソースを活用した自動化・省人化の推進
- 新たな要素技術の導入・新工法の開発
- 混合溶融機の性能向上および混合溶融技術の素材を活用した各種成型技術の検証



WJK 株式会社 **放電精密** 加工研究所

本資料に記載された目標や予測等、将来に関する記述があります。
資料作成時点での当社の判断に基づき作成したものであり、その情報の正確性を保証するものではありません。
また、様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績や結果とは異なる場合があります。